

旭川市内関係部局コーディネイトによる農福連携モデル

〈花き生産者〉 千代 圭 (旭川市)



〈花苗定植作業〉

【組織等の概要】

- 経営主: 千代 圭
- 農業従事者: 4名
- 経営面積: 267a(うち花き・野菜用ハウス18棟)
- 旭川市内における農福連携取組事例

旭川市農政部HP

<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/500/501/504/d065602.html>

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 臨時雇用で農作業を行っていた。
- ◆ 旭川市農政部と懇談の席上で慢性的な労働力不足の件を相談したところ「農福連携」という取組を紹介された。
- ◆ この取組に対して興味を持ったので改めて市と相談し、試験的に委託してみたいと提案した。
- ◆ 農作業がどこまで出来るのか、また、福祉事業所への依頼をどのように進めれば良いかわからなかったが、旭川市(農業振興課、障害福祉課)と旭川自立支援協議会就労部会(※)が連携を取り事業所への呼びかけ等を行った。
平成30年1月に就労継続支援B型の事業所と請負契約を結ぶこととなり、旭川市の農福連携取組事例として行うこととなった。
- ◆ まず、花き苗定植や草取り等を中心に作業してもらい、慣れてきたら芽掻きや収穫、さらに包装も行ってもらった。
- ◆ 思った以上に活用が出来たので当初予定していなかった「寒締ほうれんそう」の収穫や袋詰めにも従事してもらった。

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 施設利用者への作業指示は事業所職員が行うため、事前に同職員と作業手順の打ち合わせを行った。
- 作業道具に目印やカラーリング等をして間違えないような工夫を行った。
- 夏期のハウス内作業が多いので、熱中症防止のため、こまめに声をかけ水分の摂取を促した。(作業に集中すると取り忘れてしまう事がある)

【取組の成果】

- 利用者個々に適した作業を見つけてあげればとても集中して行ってくれた。
- 補助的作業が中心だったが、農福連携を行う以前よりは順調に作業が回るようになった。

【今後の展望】

- 当初はどれぐらいの効果があるのか見当が付かなかったが、実際に農福連携に取り組むと、考えていたより作業効率が良くなった。今後も農福連携は有用なので継続していきたい。

(※)旭川自立支援協議会就労部会
旭川市地域における障がい者等への支援体制の整備について協議を行っている。就労部会は、協議会の専門部会。上川中南部障害者就業・生活支援センターきたのまち、相談支援事業所、就労系障害サービス事業所、旭川市障害福祉課等で構成されている。



〈千代氏と生産している「スターチス」〉

